

CSRレポート 2015

未来に種まき

CSRレポート 2015

目次

トップメッセージ	4
特集 グラフィックガーデンの環境活動	6
従業員とともに	8
お客様とともに	12
パートナー会社とともに	15
地域・社会とともに	16
環境配慮	18
情報セキュリティ	21

編集方針

日経印刷はこのCSRレポートを通して「社会」と「環境」の観点でステークホルダーの皆様の期待に応えるために取り組んでいる活動を開示することにより、当社の企業活動にご理解いただき、またステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを深め、「人の想いをカタチに」する情報加工産業の価値向上に役立てていくことを目的にしています。

本年度のCSRレポート作成にあたっては、従業員も重要なステークホルダーであるという考えに立ち、教育体系や福利厚生など、人事施策について幅広く取り上げています。

対象期間

原則として、2014年度（2014年1月～2014年12月）の活動を対象期間としていますが、一部2015年のデータも含まれています。

報告対象分野

本レポートは日経印刷の社会・環境に関する取り組みを対象としています。

ご意見・お問い合わせ

日経印刷のCSRへの取り組みについて、ご意見・ご感想をお寄せください。CSR活動やCSRレポートの改善にいかしてまいります。

発行月：2015年11月

所轄部署：日経印刷株式会社 管理本部 総務部

連絡先：TEL 03-6758-1001 / FAX 03-3263-5814

表紙について

昨年創立50周年を迎え、次の50年に向けての新たなスタートの年。ステークホルダーの皆様や社会とともに発展・成長することを願い、未来に向けて新しい取り組みの種まきを表現してみました。



会社概要

会社名	日経印刷株式会社	売上高	103億1,000万円 (2014年12月期)
代表者	代表取締役会長 林 吉男 代表取締役社長 吉村 和敏	従業員数	420名 (2015年4月現在) (パートアルバイト含む)
本社所在地	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5 TEL 03-6758-1001 FAX 03-3263-5814	加盟団体	東京商工会議所 東京都印刷工業組合 日本グラフィックサービス工業会 グリーン購入ネットワーク (GPN) 日本WPA (日本水なし印刷協会) 日本電子出版協会
創業	1964年10月		
資本金	9,750万円		

業務内容

企画・デザイン、編集、ライティング/DTP、出力等プリプレス工程全般/オフセット印刷 (枚葉) /プリント・オン・デマンド/製本一式/表面加工/紙器・加工/仕分・梱包・発送/CD、DVD等メディア制作/Web制作/電子出版/白書製造請負、出版・販売

事業所

グラフィックガーデン	〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16	TEL 03-6758-1000
ハイデルベルグフロント	〒135-0023 東京都江東区平野2-3-14	TEL 03-6758-1004
浮間工場	〒115-0051 東京都北区浮間2-15-8	TEL 03-6758-1005
DTPスタジオ	〒383-0042 長野県中野市西条1315	TEL 03-6758-1006

日経印刷の情報

日経印刷ウェブサイト <http://www.nik-prt.co.jp> の各コンテンツをご覧ください。

個人情報保護方針

<http://www.nik-prt.co.jp/company/privacy.html>

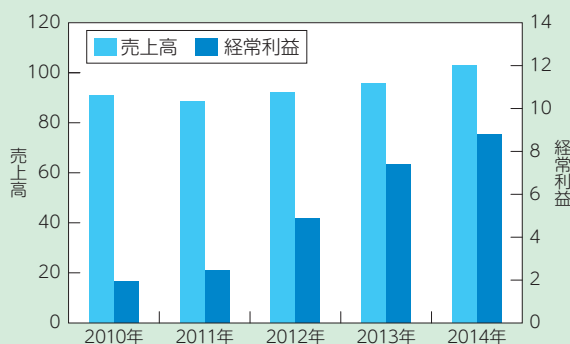
品質方針、環境方針、ISMS基本方針

<http://www.nik-prt.co.jp/company/social.html>

認証取得

ISO 14001 : EMS
ISO 27001 : ISMS (本社・グラフィックガーデン)
プライバシーマーク認定 (JIS Q 15001)
FSC® COC 認証
グリーンプリンティング工場認定 (グラフィックガーデン)
Japan Color 標準印刷認証 (グラフィックガーデン)
Japan Color ブルーフ運用認証 (グラフィックガーデン)
Japan Color マッチング認証 (グラフィックガーデン)

売上高・経常利益推移 (億円)



社員数 (人) ※パートアルバイトは除く



“想い”を継げる。

情報加工と印刷技術を通して、その可能性に挑戦していきます。

次の50年に向けて

2014年10月に創業50周年を迎え日経印刷株式会社は、次の50年に向けて新たな船出を切りました。変化の著しい時代において、時流を捉えたダイナミックな経営手腕によって新たな可能性に挑戦し続けてきた林社長（現会長）のもと、その情熱に応えようと知識と技術の錬磨を続けた従業員の努力が、これまでの歩みを支えてきたものと実感しております。また経営面では、コンプライアンスを順守し、パートナー企業様、地域住民の方々と手を携え、企業の社会的責任を果たすべく真摯に実行してきた結果として今日があり、ご理解、ご協力いただいたステークホルダーの皆様に、厚く御礼申し上げます。

情報資産の価値を高めるために

我々は創業以来、「印刷」という情報伝達手段の技術向上に取り組み、「ものづくり」を通して社会に貢献す

ることを使命としてきました。紙とインキを使い、文字や写真、絵で表現することで人の想いをカタチにし、それを受け取った方が何かを感じて次のアクションを起こす。その想いのリレーが双方向のコミュニケーションにつながり、お客様が発信する情報の価値を高めていきます。我々は「情報の価値向上」の観点に立って皆様との関わりを深めるなかで、多様なニーズに柔軟に取り組むとともに、印刷技術を通して共感をエンジニアリングすることの可能性に挑戦してまいります。

紙と電子デバイスを結合

インターネットの普及やデジタルインフラの進歩は、情報メディアの在り方に大きな変化をもたらしました。一部で紙メディアの存続を危惧する声も聞かれますが、我々の主軸はあくまでも「紙」です。電子デバイスは速報性、検索性に優れていますが、紙（の本）は再生機器やバッテリーが不要なうえに、拡張子などの制限があり



日経印刷株式会社 代表取締役社長

志保和敏

ません。また、ボリュームを直感的に把握できる物質的存在感があり、アンダーラインを引いたり余白に文字を書き込んだりと、個々がカスタマイズすることもできます。そのほかにも、デジタルにはない温もりや手触り、可読性や視認性など、紙にしかない良さがあります。我々は、紙の優位性を改めて見直すことで改良を続けると同時に、電子デバイスの長を効果的かつ柔軟に取り入れることで、情報伝達サービスの向上に努めていきたいと考えています。

今後は、我々がもともと強みとしているオフセット印刷、小ロット生産に最適なデジタルオンデマンド印刷など、ニーズに合った的確な表現方法を組み合わせることで、お客様の叶えたい想いの実現をサポートしていきたいと思っています。

未来へつながる3つの“想い”

企業の継続的な発展には、経営陣はもちろんのこと、

従業員一人ひとりの成長が必要不可欠です。そのためには、仕事と生活を両立し、やりがいと充実感を持って働く環境がなければなりません。日経印刷では、従業員が豊かな生活を送ることをテーマに、ワークライフバランスについての検討部会を立ち上げ、問題点の抽出と改善策についての検討を始めました。各自のキャリアビジョンとライフプランに合わせてステップアップしていける仕組みを構築すること、また、経営陣と従業員、そして日々支えてくれる家族を含めた全員が、日経印刷を核として連携を深めることが、企業の持続的成長につながると考えています。

企業、仲間ともに自身も成長したいという“想い”、お客様のご要望にお応えしたいという“想い”、環境、地域を含めた社会全体に広く貢献したいという“想い”。我々は「和で稼ぐ、和が稼ぐ」というスローガンのもと3つの想いを束ね、これからも「紙」とつながる情報表現の未来に挑戦してまいります。

ゼロエミッション実現のために グラフィックガーデンの環境活動

グラフィックガーデンは、日経印刷グループの自社工場での生産量のうち約80%を占めるフラッグシップ工場です。紙やインキなど、副産物のリサイクル量についても全体の約80%を占め、グラフィックガーデンは環境面においても日経印刷そのものということができます。そんなグラフィックガーデンで使用されている機械や環境活動、またその背景にあるさまざまな取り組みをご紹介します。

製版部

現像廃液の量を $1/8$ に

日経印刷で作成される印刷物のうち、約95%は製版部にあるプレートセッターから出力されたPS版が使用されます。このPS版を出力する際に発生する現像廃液は、今までそのまま産業廃棄物として廃棄していました。

会社の成長とともにPS版の出力量は増え、それにともない排出される廃液の量も増えました。多い月には約3,000リットルにもなった廃液を減らすため、現像廃液削減装置を導入しました。この装置により、廃液は濃縮された廃液と再生水に分離され、廃液の量は従来の約1/8まで減りました。さらに、生成された再生水はプレート洗浄液として再利用されています。



印刷部

人から機械によるメンテナンスへ

印刷機のブランケット（インキを転写する部位）は、版を交換したときやゴミや紙粉が着いたときに洗浄する必要がありますが、従来は溶剤と水を使用するブラシ式の自動洗浄装置が使われていました。このブラシ式装置の洗浄には大量の溶剤が必要で、それにとまって発生する廃液の処理が必要でした。グラフィックガーデンにある印刷機には、布タイプの自動洗浄装置が取り付けられました。これにより、ブランケット洗浄における廃液はゼロになり、全体での溶剤使用量も88%削減されました。

印刷部

調色名人は無駄なインキを作らない

従来、特色インキは色見本を基に試しながら作成したため、どうしても実際に印刷で使用するインキの量より多くなりがちで、あまったインキは廃棄されていました。また、同じ色の再現もとても難しいものでした。

そこで調色名人が導入されました。今までに蓄積されたインキの配合データは約60,000件以上になります。データで管理することで色の再現性が上がり、インキの作り直しがなくなりました。さらに過去の印刷部数データなどから使用するインクの量も計算できるようになったため、必要な時に必要なだけのインキが作成できるようになりました。





製本部

リサイクル品発掘

グラフィックガーデンの事業所ルールでは可燃物として扱われているものに対して、「もっと細かく分類できないか」「リサイクルできるものがあるのではないのか」と考え、チームのメンバー自らがリサイクル業者に直接聞き取りを行い、製本部独自の分別ルールを決め、実験的に自分たちで実行しています。この実験から具体的な成果が見えてくれば、自部署だけの活動ではなく、他の部署や事業所全体（グラフィックガーデン）、さらには会社全体への展開も視野に入れて取り組んでいます。



製本部

無駄取りのためならメーカーにも協力を仰ぐ

製品の包装作業では液体の糊が欠かせません。専用の機械に入れて使用するこの液体糊は、1日の作業が終わると固まるのを防ぐために機械のタンクから専用の容器に戻す必要があります。

このとき、どうしても機械のタンクには微量の液体糊が残ってしまったため、固まった液体糊を翌日廃棄することがあたりまえのように行われていました。

「何とかこの無駄な糊の廃棄をなくしたい」という思いを機器メーカーにも伝え、試行錯誤を繰り返しながら機械のカスタマイズが実現しました。今では、固まった液体糊を捨てることは無くなりました。

情報システム部

正しく、安全に、確実に機器を廃棄する

以前は廃棄業者にお金を払ってPCなどの機器を廃棄していました。全社的なPCの入れ替えなどにより廃棄が必要になったときなどは、1回の廃棄で数十万円の費用が発生したときもありました。

この廃棄にかかる費用を何とかしたいということで、なるべく費用の掛からない廃棄方法を模索し始めたところ、リユースのためにPCを買い取る業者を見つけました。これにより、ほぼ費用が掛からなくなり、当初目的は達成しました。しかし、ISO14001（環境）やISO27001（セキュリティ）などの会社が取得している各種認証への対応が必要となり、機器の廃棄フロー・ルールの抜本的な見直しを行いました。現在では、新しい廃棄フローと廃棄ルールに沿って確かかつ安全に機器の廃棄が行われています。

設備名	機種	処理内容
PC	デスクトップ	リユース業者へ売却
プリンター	インクジェット	廃棄業者へ廃棄
サーバー	ラックマウント	廃棄業者へ廃棄
モニター	液晶	廃棄業者へ廃棄
キーボード	有線	リユース業者へ売却
マウス	有線	リユース業者へ売却
周辺機器	その他	廃棄業者へ廃棄

従業員とともに

2014年、50周年という節目の年を無事に迎えられたのは、日々、真摯に業務に向き合う従業員の力あつてのことです。その従業員が働きやすい環境のなかで、さらに成長をしていくために、ワークライフバランスの検討、教育体系の構築、福利厚生充実を図りました。

創業50周年感謝の集い

2014年10月、日経印刷は創業50周年を迎えました。これを記念して、社員とその家族、OB、内定者など500名を超える人数の記念パーティを開催しました。家族を招待してのパーティは10年ぶりの開催でしたが、和気あいあいとした雰囲気の中、職場紹介ビデオや大ビンゴ大会などで楽しい時間を過ごしました。



パーティーを楽しむ社員とその家族

ワークライフバランス検討部会の開催

若い社員が多いため、結婚、出産する社員が多くなります。そのため、育児と仕事を両立するための働き方を従業員の意見を取り入れて検討する必要性が高まっています。しかし、ワークライフバランスは女性だけのものではありません。そこで、育児休業から復職した社員や子育て中の社員、これから結婚・出産を考える社員に事務局を含めた14名のメンバーでワークライフバランス検討部会を開催いたしました。これまでの3回の部会を通して、時間管理、フレックス、営業チーム制、キャリアビジョンなどについてさまざまな意見を交わしました。今後は「残業が少ない職場環境」、「有給休暇取得率アップ」、「社員一人ひとりのキャリアステップ」の3つのテーマに絞り、その仕組みを検討していくことになりました。

ありたい姿	検討事項
残業が少ない職場環境	チーム制、デスクトップの仮想化と個人の携帯機器の業務利用、管理職への教育、仕事の密度での評価
有給休暇取得率アップ	チーム制、管理職への教育
社員一人ひとりのキャリアステップ	組織のあり方、管理職への教育、スキルマップ見直し、仕事の密度での評価

教育体系図と社内研修

2013年に教育体系構築プロジェクトを推進し、会社全体の教育体系図を作成しました。2014年度からはその体系図に基づき、さまざまな研修を計画し、その一部を実施しました。

●教育体系図

STAGE	教育手法						
	職種共通				マネジメント	育成の仕組み	
	全社共通	部署別	年齢・階層別	選抜			
8	社内講習（情報セキュリティ、個人情報保護、環境、コンプライアンス、CSR等）・理解度テスト フィロソフィー（経営哲学）教育 中途社員受入教育	勉強会・展示会・外部セミナー 計画的なOJT教育（業務スキル） 人材育成中期レジジョンに基づく教育	35歳研修 45歳研修 キャリアアップ研修（29歳） 中堅社員研修（25歳） フォローアップ研修 新入社員研修	衛生管理者講習・派遣元責任者講習・面接官研修 晴朗塾	新任課長研修 管理職研修 主任研修	自己啓発支援・資格取得支援 人事評価制度	
7							
6							
5							
4							
3							
2							
1							

(1) 新入社員研修・フォローアップ研修

2014年度は4月1日に新卒14名、キャリア4名の合計18名が入社しました。3月31日にマナー研修、4月1日に入社式を行い、引き続き新入社員研修を実施しました。日経印刷の新入社員研修では各部署のマネージャーが講師を担当します。3日間の社内研修の後は、学校法人日本プリンティングアカデミーで約3週間、印刷の基礎についてしっかりと学習します。そして入社から半年経った10月にフォローアップ研修を実施しています。そこでは、新入社員たちが自分のできていること、できていないことについて上司・先輩からアドバイスをもらうことで、2年目に向けての意識付けを行っています。

(2) 中堅社員研修

6月に大卒4年目、高卒6年目の社員を集めて、中堅社員研修を実施しました。問題解決力、コミュニケーション力、問題解決実践力の向上を目的とし、2泊3日で行いました。さまざまな部署の社員が集まるため、部署間連携の強化も狙いのひとつとなっています。

(3) 面接官研修

年々変化している新卒採用環境に対応するため、2月に面接官研修を実施しました。二次選考、三次選考を担当する部長、課長とリーダークラスの社員を対象とし、どのように評価するか、そして惹きつけるためにはどうすればよいかを学びました。

(4) 評価者説明会

2013年度から新人事制度の運用を開始しています。新しい制度の運用開始にあたっては、マネージャーに対して評価制度の設計思想や評価の際の注意点について説明を行いました。目標設定の重要性を再認識してもらうため、2014年12月に評価者勉強会を開催しました。

新たな福利厚生サービスの導入

2014年12月から、福利厚生サービス「ベネフィット・ステーション」が利用できるようになりました。これは株式会社ベネフィット・ワンの提供するサービスで、宿泊施設やフィットネスクラブの申込、ショッピング、自己啓発、育児・介護等幅広いメニューを会員優待料金またはポイント還元にて制限なく、何度でも利用できるものです。社員本人だけでなく、家族も利用可能となっています。



ダイバーシティと労働安全衛生

■多様化する雇用状況に対応

当社は年々多様化する雇用環境に対応し、ダイバーシティの推進に積極的に取り組んでいます。

- 新卒採用2014年4月の定期採用は14名でした。
- 中途採用2014年を通し53名を採用しています。そのうち1名が60歳以上の高齢者でした。
- 2014年度に定年を迎えられた方は1名でした。
- 外国籍の方の採用状況ですが、日本語学校の留学生を短期のパート社員として11名採用しました。

■労災の内訳と対策

2014年は業務災害・通勤災害とも2013年より発生件数を抑えることができました。

業務災害は5件から4件、通勤災害が2件から1件へそれぞれ1件減少しています。業務災害の内容は、以下のとおりです。

- 校正紙を切る時にカッターで誤って指まで切った。
- シートシャッターのバーがレールから外れたため、レールの溝に戻そうとして誤ってバーを足の上に落とし親指を骨折した。
- 高温の糊釜に付着した不用な糊の塊をふき取った時、左手に付着し火傷を負った。
- エアホースが継ぎ手から外れ暴れた状態になったため、押えようとして左目にホースの先端がぶつかった。

いずれも不注意やルールを守らなかったために発生したもので、まずは決まった手順通りに作業することの徹底が必要です。それだけにとどまらず、トラブルが発生した場合の対処方法のルール化や、事例を元にしたルールの再教育や再周知を行うことで再発防止に努めています。

1件だけ発生した通勤労災は、電車の中でめまいから転倒し頭部に打撲を受けたというものです。特に持病があったわけではありませんが、自己管理に注意をお願いしています。

●労働災害件数（全て休業4日未満）

年度	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
件数	7件	4件	7件	5件	4件

■健康管理と心身の安全配慮

産業医の月例定期訪問時に産業医面談を実施しています。内容は過重労働問診票によるものや本人からの面談希望、健康診断事後措置票によるものやメンタルの相談まで、2014年には延べ8名が産業医の面談を受けました。また、2013年から、産業医の指導の下、安全運転講習時に、睡眠時間・眠気の有無、てんかん、睡眠時無呼吸症候群、糖尿病や服用している薬の状況などについてアンケートを行い、その結果を産業医に提出してチェックを受けています。万一の事故への備えとして、会社の車両を運転する機会のある社員全員を対象に、今後も年に一度継続していく方針です。

■子育て支援制度

2014年度の子育て支援制度の利用状況です。

●育児休業制度

2014年度は育児休業中の社員が単年度で過去最高の6名でした。そのうち2名は2人目のお子さんの出産で、育児をしながら仕事を続けることができる環境が整ってきているといえます。新たに産前産後休業に入る社員が3名おり、そのまま育児休業制度に入りました。また1名が育児休業から復職しました。

●配偶者出産休暇

配偶者が出産された社員が8名いました。その内7名が制度を利用しました。

●子の看護休暇

10名、延べ30日間の利用実績がありました。

●育児短時間勤務

2名の社員が短時間勤務制度を利用して勤務しました。

Voice

2013年の11月より1年5ヶ月の育児休業を取得し、2015年4月に復職しました。休職中に実際に会社に出向いたのは、出産後の挨拶、メールのチェック、年末に来年度に向けての上司との話、復職が決まってからの挨拶など、5回ほどでした。日ごろ後輩から来る仕事に関する問い合わせメールへの返答や年4回発行される社内報が、会社との繋がりになっていたと思います。ちょうど、育児休業中に会社が創立50周年を迎え、パーティが催されたのでそちらにも出席させていただきました。

育児休業中は会社の情報を得る機会が少ないので、会社側から休職者に対してどのように情報を発信していくかが今後課題になると思います。



総務部総務課
神郡 美穂さん

お客様とともに

企業が社会的責任を果たすためには、「持続的な成長」が最も重要と考えます。安定した経営基盤があってこそ、従業員はもとよりお客様、社会や地域への貢献が可能となります。健全な事業を継続するために、「お客様の声」に耳を傾けることで時流を捉え、ニーズを考慮した事業に取り組んでいます。

グラフィックガーデン見学会

グラフィックガーデン見学会の開催は4年目となりました。昨年もさまざまなテーマでのセミナーと工場見学会をセットにした企画を開催し、幅広い層のお客様にご来場いただきました。

■セミナー

【「貴社らしさ」を伝達するためのCSRコミュニケーションについて】3月開催

企業が発行するCSR報告書やマーケティングの重要性、効果的にファンを獲得するためにステークホルダーにどう情報を開示すべきかについて、ガイドラインなどの利用方法を交えながらご紹介しました。

【お客様のデザインイメージを客観的に先取りする「購買促進」とは】4月開催

売り手と買い手相互の関係づくりには、お互いに持っているイメージを共有・共感することが肝要です。このプロセスにおける手法の確立こそが、「購買促進」の実現において最良の戦略であるとして、「VACイメージマーケティング支援システム」を使ったイメージの先取り手法についてご紹介しました。

【画家の装幀－装幀と装画の幸せな関係－】7月開催

歴史的にも名作とされる貴重な作品の紹介とその作者についての解説、現代出版界における紙の本が果たす役割や重要性についてご紹介しました。

【企業価値をわかりやすく伝える統合報告】11月開催

世界的に注目が高まりつつあり、今後急速に拡大していくと予想される21世紀の新しい企業報告の枠組みである統合報告について、企業の情報開示を取り巻く背景や最新の動向を具体的な事例を交えてご紹介しました。



グラフィックガーデンセミナーの様子

Voice

- 装幀・装画は五感に訴える要素の中でも視覚的要素と触感的なもの、自ら装幀、装画の専門家である講師ならではのレクチャー内容、事例があり、出版文化への情熱が伝わってきた。(T社H様)
- 本づくりには全体のバランス、中身と装幀の関係性、合致性、意外性が求められることが分かりました。(A社Y様)
- 先生の講演内容は参考になりました。ステークホルダーの考え方（意見を聞く姿勢の重要性）は特に良かったと思います。(D社K様)

■工場見学会

工場見学会では、2012年の印刷産業環境優良工場表彰において「経済産業大臣賞」を受賞した当社の環境への取り組みをご紹介します。

用紙やインキなどの原材料が製品化される過程で、断裁紙や紙粉、廃液などの廃棄物が排出されます。その廃棄物がどのような方法で分別処理され、最終的にリサイクルされるか、また電力消費対策としての省エネ活動や社員教育の取り組みなどについて、各フロアを回りながら全過程を直接ご覧いただきました。

これからも、環境に配慮した設備維持や投資、生産活動、社員教育などを通じて、地域社会との融合や安全な製品の市場への提供、社会への貢献を実現していきます。



社員による実演説明

Voice

- 工程の細かい部分も見学できてとても勉強になりました。珍しい企画で楽しかったです。(Q社I様)
- デザイン・DTP・印刷・製本・出荷でのスムーズなワンストップサービスに感銘を受けました。また、気持ちの良いあいさつ等の社員教育や快適な職場環境が素晴らしいと思いました。(S社N様)
- とても分かりやすくご説明いただきました。私の会社にも展開出来そうな内容もあり、非常に勉強になりました。(R社K様)
- 印刷技術について実際に行われてきた改善活動とその結果の苦労談を聞いてみたい。(M社M様)
- 担当業務では印刷会社様とのやり取りすることが多いことから、今回の見学で印刷工程がよくわかりとても有意義となりました。(T社Y様)

●2014年度グラフィックガーデンセミナー一覧

開催日	テーマ	社数	人数
2月13日	見ながら学べる本づくり-90分の工場見学会	19	39
3月14日	CSRセミナーと報告書作成現場見学会	19	24
4月24日	デザインツールセミナーと工場見学会	19	32
6月12日	見ながら学べる本づくり-90分の工場見学会	29	56
7月10日	ブックデザインと工場見学会	18	38
9月18日	見ながら学べる本づくり-90分の工場見学会	21	44
10月17日	見ながら学べる本づくり-90分の工場見学会	23	55
11月27日	CSRセミナーと報告書作成現場見学会	14	17
合計		162	305

日経印刷のカラーマネジメント技術

Japan Color 認証を基軸としたカラーマネジメントシステムで、お客様からの要望に応じています。

印刷物の色は、印刷機を設置してある環境や印刷速度、インキの硬さやメーカーの違いなど、さまざまな要因により変化してしまいます。お客様の色再現の要求に応えるためには「印刷の基準」を作ることが大切です。

そのため当社では、Japan Color 認証*を基軸としたカラーマネジメントを行っています。モニター、各プルーフ、印刷機、さまざまな変動要素を考慮し、どの工程においても常に基準の色を確認することができます。高度な技術と知識を駆使してお客様のご要望にお応えし、廃棄物発生の要因となる修正や刷り直しを削減しています。

● Japan Color 認証制度

ISO国際標準に準拠し、日本のオフセット印刷における印刷色の標準的な基準である Japan Color に基づいて、公正な第三者機関により認証を行うものであり、「標準印刷認証」、「マッチング認証」、「プルーフ運用認証」、「プルーフ機器認証」によって、構成されています。

当社は2012年に「標準印刷認証」と「プルーフ認証」を取得、2013年には標準印刷認証の上位にあたる「マッチング認証」を取得しました。



Japan Color 認定証

お客様からの Japan Color 指定の高いご要望に対しても、理論的にお答えしています。具体的にはカラー印刷機では、イメージコントローラの分光光度計（濃度や色差を計る装置）で印刷物の絵柄の Lab 値（色再現値）を読み取り、基準値に対する補正值（色のズレ）を算出して転送することでインキ量を自動的に制御し、CMYK ベタ濃度や CMY グレーバランスの品質を管理しています。

また、場合によってはお客様立会いの下で印刷機を回し、実際の印刷物を確認していただく対応も行っています。

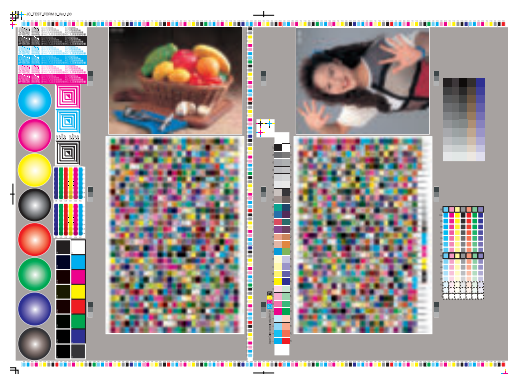
カラーマッチングと、その精度向上のための取り組みに終わりはありません。

カラーマッチングとは、ディスプレイ表示とプリンタの印刷、さらには実際の印刷による色に差が生じないように色の再現性を調整する技術です。当社では、周辺機器である色補正用モニター、カラープリンタ、プルーフ・デジタルコンセンサス・デジタルオンデマンド印刷の色も Japan Color 基準内に合わせています。

印刷機については Japan Color 基準に沿っているか、専用の絵柄を印刷して測定（1674色）を行います。仮に基準値に入っていない場合、印刷物および印刷機の管理項目表から機械的不具合を調査し、修理および調整を行い再度専用の印刷を行っています。これにより、すべてのカラー印刷機が基準値に入る設定としています。

これら技術の情報共有や精度の向上のため、社内での作業に特化した人員を集め、カラー会議を発足。カラーマッチング精度の向上を図っています。

これからもお客様に満足いただけるよう、カラーマネジメント技術の向上に努めていきます。



1674色の専用の絵柄を印刷して測定を行う

パートナー会社とともに



日経印刷は、パートナー会社の皆様とコミュニケーションを図り、良好な関係を構築していくことで、品質、納期、環境保全の維持向上にとともに取り組んでいます。これからもパートナー会社とともに発展していけるよう、さまざまな取り組みを進めていきます。

現場での確認を大切に

お客様からの品質要求が高まる中、お客様の求める品質を満たすために、それぞれのパートナー会社の特性を把握し、その特性にあった案件を発注するようにしています。パートナー会社の特性を把握する方法として、作業現場への訪問活動を重点的に行い、現場では、設備・従業員・作業環境・作業の流れ・品質管理体制をはじめ、機械設備のメンテナンス実施状況や製品の出荷前の検査方法などを確認しています。



パートナー会社への訪問活動

各パートナー会社を同じ視点で確認していくことで、それぞれの会社の品質に対する意識や、特性が見えてきます。その上で当社から品質管理の上でのお願いや、他のパートナー会社で行っていることを伝え、より良い作業環境が構築できるようにしています。日々の仕事のやり取りの中では、印刷会社には実際に印刷したサンプルを、製本会社には製品見本の提出をお願いし、それを生産管理部で検査して品質を確認しています。



不良事例ニュース

万が一、不良が発生した際には、パートナー会社と共に再発防止策を考えるようにしています。その際に最も心掛けていこととして、必ず実施できるものにする、ということがあります。再発防止策を立て

た後は、その対策が実施されているかを確認するために作業現場を訪問し、代表者や作業者的かたに聞き取り調査を行い、確認を行っています。また作業現場への訪問を増やすことで、そのパートナー会社の特性も多くなつていくことができます。

また、品質に関する情報の周知や水平展開を目的として、「不良事例ニュース」を発行し、パートナー会社に配信しています。実際に発生した事例を元に、発生した原因や不良についての対策などを写真付きで紹介し、パートナー会社との情報共有に役立させています。パートナー会社において、プリントアウトした「不良事例ニュース」を掲示していただき、従業員の方々への注意喚起にも利用していただいています。

環境や情報管理も共に

環境や情報管理が必要な特殊な案件もパートナー会社に依頼しています。それらの特殊な案件を委託する際は、事前に調査票による聞き取りや、現地での調査を行った上で委託しています。特に、グリーン調達案件を依頼しているパートナー会社には、毎年1回訪問し、インキ、溶剤、針金、製本糊等などに有害物質が含まれていないかを確認させていただき、有害物質を使用していないという証明書の提出も依頼しています。また、情報管理にかかわる案件に関しては、機密保持契約書を締結した上で、刷本や製品の管理方法についての説明を行い、適正な管理の遵守を要請しています。

以上のように、当社では多くのパートナー会社とコミュニケーションを図り、関係を構築していくことで、品質の向上、環境保全の維持向上に取り組んでいます。これからもパートナー会社とともに発展していけるよう、さまざまなことに取り組んでいきます。

地域・社会とともに

グラフィックガーデンでは、インターンシップの受け入れや学生・生徒の皆さんを中心にものづくりの現場を見学していただいています。働くことを体験し、印刷関連製品のできるまでを実際に見ていただいています。

開かれた企業としてインターンシップの受け入れを行っています。

東京の地場産業である印刷業を営む企業として、日経印刷は年間を通じて多くの学校、団体の学生・生徒さんにインターンシップの場を提供しています。実際の日々の仕事に触れていただくことで、環境への配慮や情報セキュリティの中で作られている印刷物をより身近に感じていただくことを目的としています。

また、民間の障害者就労支援施設の通所者や、職業能力開発センターの皆さんの職業体験も受け入れています。これらの体験を通じて、学ぶこと、働くことの意義を感じとっていただき、就労意欲の向上につながればと考えています。

2014年のインターンシップ、職業体験受け入れ状況は弊社Webサイトをご覧ください。

<http://www.nik-prt.co.jp/company/csr2015-society.html>

Voice

- 普段何気なく読んでいた本が、どのような工程で作られているのかがよくわかりました。様々な社員の方々が苦勞して製作していると思いました。
- 社員の方々に優しく丁寧に仕事を教えていただきました。また、気さくに話しかけてくださり、3日間を楽しみながら過ごすことができました。
- 学ぶことがたくさんあったので、3年生での就職活動に生かしていきたいと思います。とても素晴らしい体験ができました。

(埼玉県立高校「インターンシップ報告書」より抜粋)

生徒さんたちの工場見学

小中学校の社会科見学を中心に、さまざまな目的を持った生徒さんがグラフィックガーデンを見学に来られます。「学校の教材で取り上げられた印刷や製本の工場を実際に見学したい」、「板橋区の産業を論文テーマに取り上げたので、その代表として印刷工場取材したい」、「働くことをより間近で感じたい」など、見学の理由はさまざまです。

見学される方のご要望に少しでも応えられるように、その目的に応じた段取りや案内の方法・内容を検討し対応して



デザイン研究所生徒さんの見学の様子



板橋区立小学校生徒さんの見学の様子

います。

2014年には初めて特別支援学級の皆さんの工場見学を受け入れました。また、北区にある浮間工場でも初めて工場見学を実施しました。

2014年の見学実績は弊社Webサイトをご覧ください。

<http://www.nik-prt.co.jp/company/csr2015-society.html>

グラフィックガーデンをロケ地としてご提供しています。

板橋区産業観光課様からのお話がきっかけとなり、グラフィックガーデンをドラマやCMなどのロケ地として提供しています。これは日経印刷も賛同している板橋区の産業観光の一環で、映像を通して東京の魅力発信や地域の活性化を図ることが目的です。日経印刷は、インターネット上で映画・テレビドラマなどの円滑な制作をサポートするためのロケ地紹介サイト「東京ロケーションボックス」への登録を2013年に行いました。制作会社からのオファーの中から、誰でも見られる地上波や無料のBSのドラマ、CMを選び対応しています。従業員のモチベーションの向上や地域のイメージアップに繋がることを期待しています。



ドラマのロケーション風景

いたばし総合ボランティアセンターのウェブサイトへの掲載

いたばし総合ボランティアセンター様のホームページ (<http://ita-vc.or.jp>) に当社の取り組みが紹介されました。同センター様は、板橋区に本社あるいは事業所を持つ企業とその社員が企業市民としての自覚を持ち、地域社会の一員として地域ボランティア・市民活動に自発的に参画することによって豊かな地域社会と働く人たちのより豊かな生活を目指すことを目的としています。

2013年に発行したWeb版CSR報告書がきっかけとなり、取材を受けることになりました。【企業CSR推進】として工場見学推進、ゼロエミッションへの取り組み、近隣清掃、CSRセミナー開催、板橋区産業観光への協力などを取上げていただき、2014年11月28日に掲載されました。詳しくは同センター様ホームページをご覧ください。

学校支援ボランティア

近隣の公立小学校様より、地域ボランティア情報チラシ作成のご相談がありました。月1回発行されるA4サイズのカラー印刷物で、校長先生が直々にお見えになり発行の主旨と内容を説明いただきました。小学校を中心とした地域の学校支援地域本部が共同して、児童の健全育成を推進するためのチラシです。季節ごとの地域行事や学校のクラブ活動などへのボランティア支援情報を地域の方々にご案内いただくことを目的に作成されています。当社も地域の一員として学校支援ボランティアに賛同するとともに、本業である印刷を活かし制作から印刷という部分で協力しています。

環境配慮 (省エネルギー・ゼロエミッション・他)

生活を維持する上で、エネルギーや身の回りのさまざまな製品を作るための原材料は、なくてはならないものです。しかし、現状ままでは、地球上で必要とされる資源は2050年までに現在の3倍になると予想されています。当社では「環境にやさしい工場」を合言葉に環境負荷の低減に取り組んでいます。

使用エネルギーの削減2%以上を目標に改善を続けています。

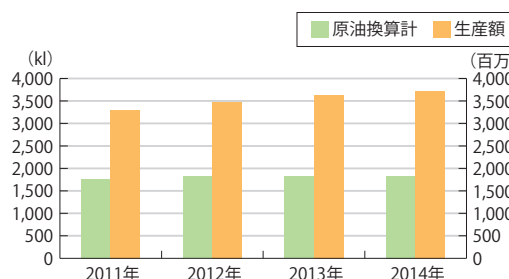
会社全体での生産量が毎年増大し、絶対的なエネルギー使用量が増えているなか、日経印刷ではエネルギー原単位*の改善を目標にしています。

省エネ法では、毎年原単位1%の改善が努力義務となっていますが、当社では倍の2%を改善目標としています。その実現のため、省エネ対策をまとめた「節電ガイド」を社内で共有して日頃より意識的に取り組んでいます。また、毎年夏季の最大電力使用量が発生する時期の前には、あらためて省エネ対策を周知徹底しています。

震災があった2011年は全従業員の努力で14%の改善を達成しました。その後2012年、2013年と2%台の改善が続き、省エネの意識が定着してきました。2014年は1.8%にとどまりましたが、2015年も改善目標を2.0%に設定し、活動を行っていきます。

● エネルギー原単位集計(全工場)

(本社以外の事業所で集計)



原単位 (百万円)	0.53	0.52	0.50	0.49
原単位改善目標2% に対する実績	14.3%	2.2%	2.3%	1.8%

ゼロエミッションの実現に向けた地道な分別

印刷物を作成することは、環境に少なからず影響を及ぼしています。日経印刷では、環境影響を緩和するために3R(リサイクル・リユース・リデュース)での分別を徹底しておこない、ゴミとして捨てるものがない、ゼロエミッションを目指しています。その結果リサイクル物などの分別は、最も多い工場では35種類となりました。だいぶ細分化が進んできましたが、それでもまだ年1件程度は新たなリサイクル物が増えています。

● リサイクル/廃棄物分類

分類1	分類2	具体例
産業廃棄物	廃プラ	弁当容器、ガラス、ビニール袋、乾電池
	廃油	洗浄廃油
特別管理産業廃棄物	廃強アルカリ	現像廃液
	引火性廃油	洗浄油 (引火点70℃未満)
事業系一般廃棄物	可燃ゴミ	生ゴミ、ちり紙、割り箸、ガムテープ
リサイクル	マテリアルリサイクル	印刷ヤレ紙
		雑誌、新聞、クラフト紙、ダンボール
		紙 (未使用印刷用紙)
		プラ類 (ラップ、フィルム、PPバンド)
		鉄くず (インキ缶、一斗缶、その他缶類)
		自販機飲料容器(カン、ビン、ペットボトル)
		アルミ (PS版)
		パレット、木くず
サーマルリサイクル	使用済みインキ	
リユース	RPF(固形燃料)化	ブランケット、紙製インキ缶、洗浄布
	容器再利用	溶剤用プラ缶、使用済みトナー容器

環境に配慮した晴朗塾のCSR活動

晴朗塾では、日経ビニール袋（校正・原稿などを入れるプラスチック製の半透明袋）を社内でリサイクルして使用するルールを決め、新品の購入を削減させました。また、印刷工程で出た残紙から自由帳を作り、工場見学に来た近隣小学校の児童にプレゼントし、紙のリサイクルについて啓蒙を図りました。



Voice

リサイクルしている残紙・損紙・断裁クズの有効活用ができないだろうか。身近な問題点として塾生からあがったテーマの解決策が、残紙を利用して自由帳を作成することでした。見学に来た小学生に渡したところ、反響も良く、社内でもリサイクルへの取り組みの理解浸透が図れたと思います。今後も塾生と創意工夫して、新たなコンテンツを作成していきたいと思います。



第5代晴朗塾長
第二営業部第1課
犬飼 浩貴さん

* 晴朗塾

雲ひとつなく晴れた（晴朗）心で熱く取り組み、お互いに学び、良いことを発信していこうという中堅社員の部署横断的コミュニケーションの場です。

有機則非該当品（有機溶剤の代替品）への置き換えを進めています。

印刷業務では、油（インキ）を溶かす性質をもつ有機溶剤の使用が避けられませんが、少しでも環境負荷を減らすための施策を進めています。

有害性の強い第1種および第2種有機溶剤は10年以上前に使用を中止し、負荷の少ない第3種溶剤に移行済みですが、現在はさらに有機則非該当品（有機溶剤の代替品）への置き換えを進め、第3種溶剤の使用量を減らしています。

会社全体の年間合計では、2009年に第3種有機溶剤を34,000リットル使用したのに対し、2013年には11,200リットルまで削減しました。2014年は6,800リットルまで削減の見込みであり、今後は有機則非該当品100%を目指します。

その他、労働安全衛生法（特定化学物質等障害予防規則、がん原性指針）やEUにおける有害物質に関する規制（RoHS指令、リーチ規則）に該当する化学物質を含有する印刷用資材についても使用を禁止しています。

* エネルギー原単位

エネルギー原単位とは、製品の単位生産量に対する必要エネルギー量で、生産効率を客観的に表す指標です。省エネ法では、年平均1%の改善が、努力義務化されています。これまで電力100kwで製造していた製品を99kwで製造できれば1%の改善となります。

日経印刷の原単位の考え方は、生産額を100万円上げるのに使用した電力とガスを原油換算してkℓで表しています。原単位0.623 = 100万円分生産するのに原油換算で0.623kℓエネルギーを使用したことを表す。

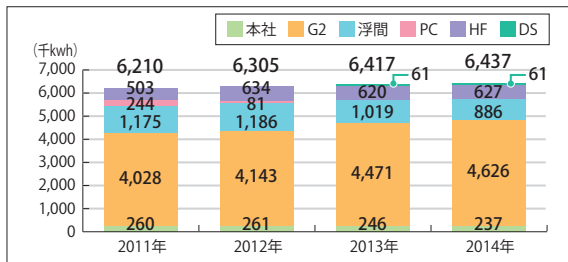
さらに高いレベルのグリーンプリンティング認定工場へ

業界団体である日本印刷産業連合会が、印刷製品の製造工程と資材について設定した環境基準をクリアした工場に付与されるグリーンプリンティング（GP）工場認定は、3年に1度の更新が求められています。グラフィックガーデンは、2012年3月にGP工場として認定されてから3年が経過し、2015年2月に更新審査を受けました。ここ数年の出来事を考慮し、新たに労働安全衛生への配慮と緊急時の対応が必須項目として加わりましたが、無事更新審査に合格し、GP工場認定を更新することができました。今後も更に高いレベルの工場を目指し、取り組みを進めてまいります。

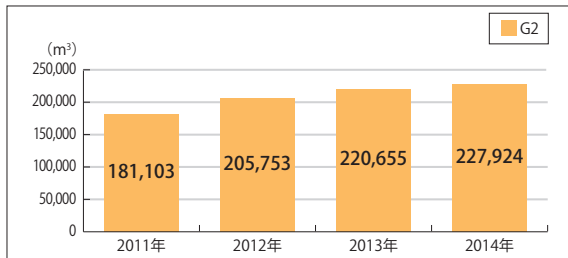
環境データ

INPUT

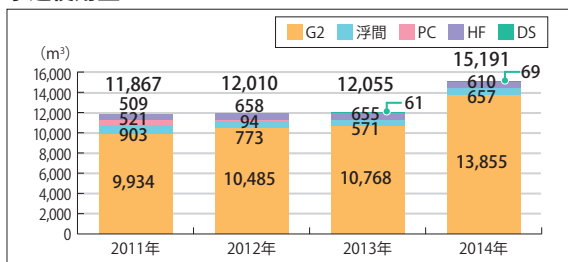
電気使用量



ガス使用量



水道使用量



G2：グラフィックガーデン HF：ハイデルベルグフロント
 浮間：浮間工場 DS：DTPスタジオ
 PC：プリンティングセンター

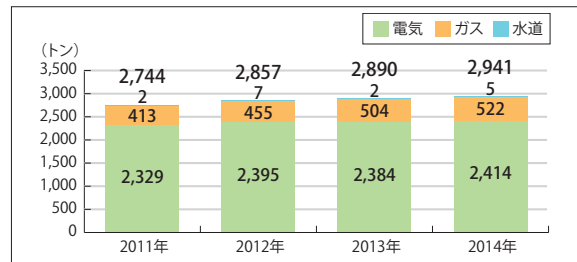
排出係数

電気：東京電力2011年度排出係数 (0.000375t-CO₂/kwh)
 ガス：環境省 温室効果ガス算定・報告マニュアルより
 千Nm³×単位発熱量(45)×排出係数(0.0136)×44/12
 水道：東京都水道局排出係数 0.2kg/m³

副産物計：リサイクル計+廃棄物計
 リサイクル率：リサイクル計÷副産物計

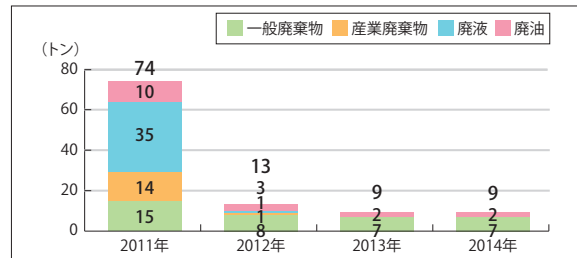
OUTPUT

CO₂(エネルギー種別)排出量 (CO₂の排出係数は11年に改定されましたが、比較のため全年と同一係数で計算しています)



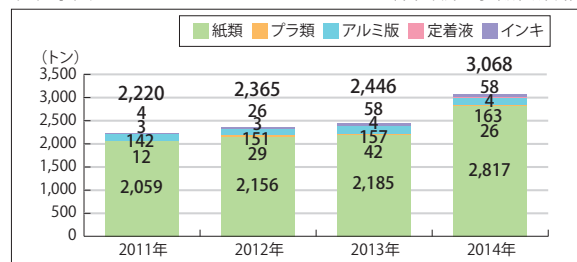
廃棄物

(本社以外の事業所で集計)



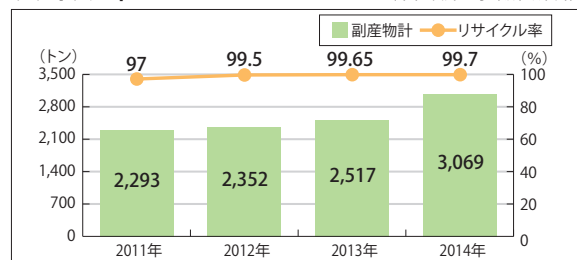
リサイクル

(本社以外の事業所で集計)



リサイクル率

(本社以外の事業所で集計)



情報セキュリティ



お客様よりお預かりする情報には、試験問題や発売前の製品情報、金融商品情報など、取り扱いに注意を要するものが多数あります。このような重要な情報を安心して預けていただけるよう、情報セキュリティに力を入れて取り組んでいます。



BCP（事業継続計画）への大きな1歩

現在、主力工場であるグラフィックガーデンにIT基盤のほとんどを集約しています。万が一、停電や洪水などでグラフィックガーデンの機能が失われると、Eメール/WebDAVサーバーなどを含め、各種データにアクセスする方法が完全に失われ、業務に支障をきたすこととなります。そのため、以前よりDR（ディザスタ・リカバリ：災害からの回復措置、被害を最小限に抑える予防措置）拠点の構築の必要性を強く感じていました。

DR拠点を構築するためには遠隔地のデータセンターを利用するのが最も適していることから、当初は長野にある弊社事業所（DTPスタジオ）に設置することを検討していました。しかし、電源不足、空調増設や機械警備の導入などの課題があること、また将来的なコストも見据えて再度候補地を検討し、最終的に沖縄をDR拠点とすることに決定しました。

こうして2014年にIT基盤強化の一環として、沖縄にデータセンターを構えました。

既に基幹システム（PrintStation2）のバックアップを取り始めており、2015年にはEメールやWebDAVサーバーのバックアップのほか、今年運用開始を予定しているバックアップ仮想化の縮退切替先やワーク・データのバックアップとしても利用を開始する予定です。



大切なデータや情報を守るために

お客様からお預かりするデータ、あるいはお客様に納品するデータは、印刷物などの製品として世の中に出るまではとても大切な情報です。データをやり取りする経路や社内での取り扱いにおいてもお客様に安心いただけるセキュリティが求められます。

日経印刷では、監査ログが取得できないデータ交換サイトを利用したデータのやり取りを禁止し、WebDAVサーバーとセキュア・ファイル転送（SFT）という2つのソリューションを使用しています。どちらも通信経路の暗号化やユーザ認証、監査ログが必須であり、大切なデータの安全な受け渡しが可能です。

Eメールやインターネットからウイルスやマルウェア感染を防ぐため、メールゲートウェイ、ファイアウォール、プロキシ、フィルタリングソフトやウイルス対策ソフトなど、さまざまなレイヤーでシステム面での各種セキュリティ施策を実施しています。

また、「極秘」、「機密」レベルに設定された業務においては、社内の作業担当者を限定して作業を行っています。さらに案件ごとにアクセス制御された専用フォルダの使用や原稿保管キャビネットの施錠、印刷物保管場所への入室制限などを実施し、作業関係者以外に情報が流出することを防いでいます。

このような取り組みは「情報セキュリティ管理策規定」でルールとして規定し、さらに一目でルールを俯瞰できる「情報セキュリティガイド」を用意することで、全社員が情報セキュリティを意識しながらスムーズに運用できる仕組みを実現しています。

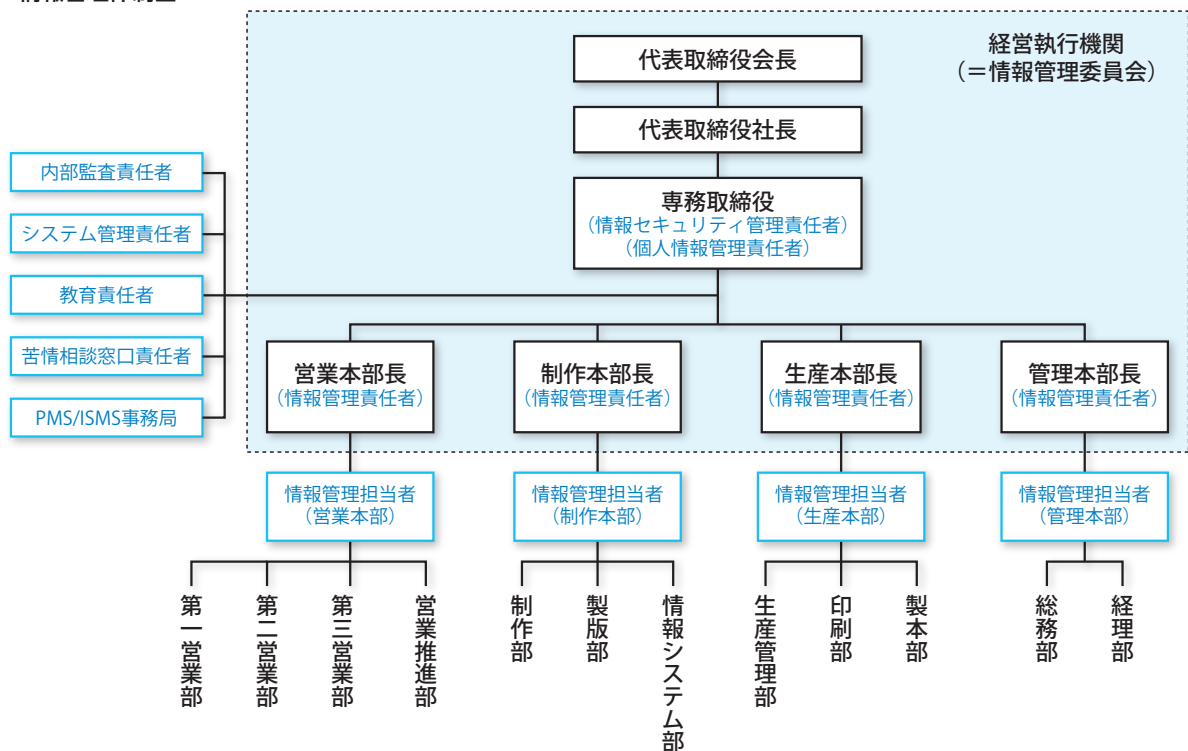
業務と一体化した情報セキュリティ体制

業務上の指揮系統と情報セキュリティ体制を同一にすることで、業務と一体化した組織体制を構築しています。情報セキュリティ運用のトップにあたるCSR統轄管理責任者を専務取締役が務め、その下に各本部長、部長を配することで、職制を通じた運用と対応を実現しています。

また、日常の小さなルール違反や不具合が大きなトラブルに発展しかねないという危機感から、毎月1回、各部署より選出された情報管理担当者が職場内を巡回し、「ヒヤリ・ハット」の検出を行っています。ここで集められた社内の状況は「情報管理担当者会議」に持ち寄られ、具体的な対策が検討・立案されます。そこから「情報管理委員会（経営会議）」の承認をもって、社内のルールとして展開される仕組みになっています。決定したルールは基幹マニュアルやワークフローにて明文化され、各部署で作成している「情報管理手順書」へ反映されます。

これ以外にも、事故（インシデント）発生時の対応手順等を明文化した「緊急事態対応規程（情報）」や、社外からの問い合わせや苦情等の対応手順を記載した「問い合わせ対応手順書」を整備することで、万一のトラブル発生時にも対応できるような体制を整えています。

● 情報管理体制図



物理的対策（盗難や災害から守る）

- 4つのセキュリティレベルに分けた入退室管理
- ICカードと電気錠による入館（室）制限
- 各種センサーを配した機械警備（警備会社と契約）
- クリアデスクおよびクリアスクリーンの徹底
- 重要な情報を含む媒体を一時保管するための鍵付きキャビネットの設置
- 免震装置の設置（サーバールーム）
- 無停電装置の設置（サーバールーム）
- ハロゲン化物を使用した自動消火装置の設置（サーバールーム）



ICカードによる入出制限。
権限設定により入れるエリアが決められています。

技術的対策（ハッキングやウイルスから守る）

- ID & パスワードによるアクセス制限
- アクセスログの取得
- ファイアウォールの設定
- ウイルス対策ソフトの導入
- 監視システムの導入

この他、パソコンからのデータの書き出し制限やソフトのダウンロード制限等を実施しています。

安心・安全な仕事環境を支える自社開発の基幹システム

情報は「守る」ばかりではなく、活用しなければ意味がありません。大事なのは、利用目的の範囲内で、必要な時に、正確な情報を利用できることです。日経印刷では基幹システム「PrintStation2」を自社で開発し、お客様からいただいたお仕事の受注情報はもちろん、購買品管理や従業員情報の管理に活用しています。

これからも、情報セキュリティの質を上げていくことで、お客様からの信頼に応えてまいります。

教育によるセキュリティの向上

どんなにしっかりしたルールであっても、それを運用する人の意識が低かったり、知識が乏しかったりすると、そのルールは“絵に描いた餅”になってしまいます。そのため、パート・アルバイトを含む全従業員を対象に、年1回以上の情報セキュリティ定期教育を実施しています。

定期教育は部署単位で実施しており、全社共通のルールに加え、その部署特有の手順についても教育を行っています。さらにその教育内容が理解されたかどうかを確認するために「理解度テスト」を実施し、全体のレベルアップを図っています。また、情報セキュリティに関する意識を高める意味を含め、「業務上知り得た情報は外部へ漏らさない」などの誓約を含んだ「守秘義務誓約書」を全従業員が提出しています。

www.nik-prt.co.jp 

日経印刷株式会社

本社

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-15-5
TEL.03-6758-1001 FAX.03-3263-5814

グラフィックガーデン

〒174-0041 東京都板橋区舟渡3-7-16
TEL.03-6758-1000 FAX.03-5392-6328

ハイデルベルグフロント

〒135-0023 東京都江東区平野2-3-14
TEL.03-6758-1004 FAX.03-3630-0826

浮間工場

〒115-0051 東京都北区浮間2-15-8
TEL.03-6758-1005 FAX.03-3966-0781

DTPスタジオ

〒383-0042 長野県中野市西条1315
TEL.03-6758-1006

